

# 経済マンスリー [原油]

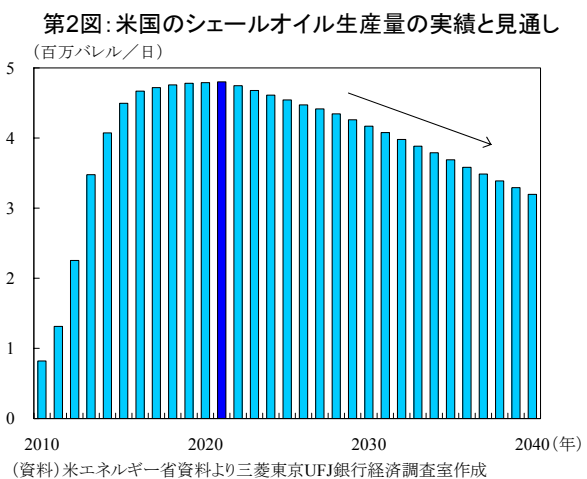
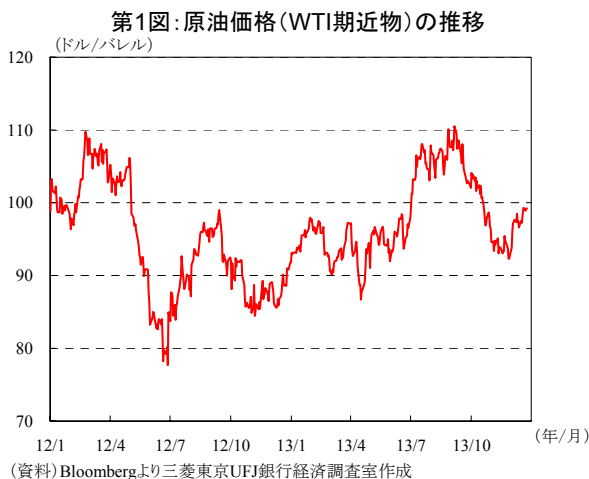
## 米シェールオイル増産と OPEC の存在感

原油価格（WTI 期近物）は地政学リスクの後退や米国の原油在庫増加を受けて下落傾向を辿り、11 月末には 92 ドル台と約半年振りの安値となった。しかし 12 月に入ると、米国でのパイプライン稼働による原油在庫減少期待や米 11 月分雇用統計の改善を受けて、原油価格は上昇に転じた。12 月中旬以降は、①来年 1 月からの米国の量的緩和縮小決定を受けて米景気の楽観的な見方が広がったこと、②南スーダンでの戦闘激化による地政学リスクの高まり、を背景に原油価格は 99 ドル台に上昇している。

石油輸出国機構（OPEC）は 12 月 4 日の総会で生産目標（日量 3,000 万バレル）の据え置きを決定した。OPEC 加盟国全体の生産量は 10 月以降ほぼ目標水準にあったことから、据え置きは広く予想されていた。最近では米国シェールオイルの生産拡大が注目を集めており、OPEC の存在感は若干薄れている感が否めない。しかし、以下にみる中長期展望では、米シェールオイル生産は 2020 年頃から減少すると予想されており、それに伴い OPEC の存在感も再び高まると見込まれる。

米エネルギー情報局（EIA）が 12 月 16 日に発表した「Annual Energy Outlook 2014」（速報版）では、シェールオイルの生産量は 2015 年にかけて拡大が続いた後、横這いながらも高水準で推移するが、2021 年をピークに減少傾向を辿ると予想されている（第 2 図）。また、OPEC の「World Oil Outlook 2013」（11 月 7 日発表）によれば、2018 年頃まではシェールオイル増産に伴い OPEC に求められる生産量は減少するが、2020 年以降はシェールオイル生産減少と OPEC 生産拡大が見込まれている。

当面、OPEC は米シェールオイルの動向を睨みつつ、世界的な供給超過を避けるために生産調整のタイミングを探っていくことにならうが、減産したりビアやイラン、イラクの今後の生産回復も考慮する必要があるとあり、加盟国の足並みが揃うには困難が予想される。まずは、サウジアラビアが機動的に対応していくこととならう。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko\_ishimaru@mufg.jp  
篠原 令子 reiko\_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。